

I-8. 東海近畿地方のナス在来種の収集 野菜・茶試, 1988年

野菜・茶業試験場 野菜育種部 育種第3研究室

門馬信二
坂田好輝

Collection of local varieties of eggplant in the Tokai and Kinki districts.

Shinji MONMA and Yoshiteru SAKATA

National Research Institute of Vegetables, Ornamental Plants and Tea

1. 目的

ナスは古くから我国に野菜として定着しており、各地で独特の品種が分化し、在来種としてその地方特有の品種が栽培されてきた。しかし、これらの在来種は画一的なF₁品種の普及により急速に失われつつあり、緊急に収集・保存する必要がある。今回は東海近畿地方におけるナスの在来種を収集し保存を図る。

2. 経過及び調査・収集方法

奈良、滋賀、京都、岐阜、愛知、三重の各試験場に在来種の有無を確認し、存在が確認されたものについて各試験場の協力を得て、7月下旬から9月下旬に調査・収集を行った (Table 1., Fig. 1)。愛知の場合は在来種の存在は確認されなかったが、尾張地方の農家等を訪問して在来種の有無を調査した。

3. 収集成果

奈良県では在来品種として「鴨ナス」が大和郡山市の丸ナス出荷組合の農家で栽培されていた。「鴨ナス」の栽培は昭和33年頃から始まり、その後栽培している株の中から優良な株を選抜し、以後選抜した株の栽培を続けている。「鴨ナス」の果形は丸型で色が濃く、ボケ果が少なく外観が優れていた。この品種の分譲を依頼したが出荷組合は種子を門外不出としており分譲を受けることはできなかったので、これとは別に奈良農試で保存中の「鴨ナス」、「小切ナス」(丸型と中長型の2種)の分譲を受けた。

滋賀県では以前から在来ナスとして知られている「杉谷ナス」と今回の調査で初めてその栽培が明らかとなった「下田ナス」を収集した。「下田ナス」は甲賀郡甲西町下田地区で栽培されていたもので、これまでの我国の在来ナスに関する文献にも記載の無かったものである。果

形は中長型で果色は薄く、へた下は着色しない。皮が軟らかく漬物に適している。「杉谷ナス」は丸ナスで果色は濃く、果肉が緻密で堅いわりには皮が軟らかい。

京都では「賀茂ナス」、「山科ナス」、「もぎなす」、「西院ナス」が在来ナスとして知られているが、前3者を栽培している農家を訪問して調査・収集した。「賀茂ナス」は丸ナスで果色は濃く、肉質は緻密で比較的堅い。へたの数は3～5であるが3のものが本来の「賀茂ナス」といわれている。「山科ナス」の果形は卵型、果色は濃紫色、皮は薄く、果肉は軟らかい。「もぎなす」の果形は楕円形、果色は紫黒色でへた下は着色しない。20g程度で収穫する。

岐阜県の在来ナスとしては「恵那長」が知られているが、現在その栽培はなくなり、品種も保存されていない。しかし中津川地方では在来の「中村ナス」が栽培されていたのでこれを収集した。「中村ナス」の果形は長型で先が尖る。果色は淡黒紫色でへた下は着色しない。皮は薄くて軟らかい。「中村ナス」の特性からみて「恵那長」の1系統なのではないかと思われた。

三重県の在来品種としては津市近辺で栽培されていた「古川ナス」が知られているが、既に栽培はなくなり、品種の保存もされていない。しかし志摩郡大王町では在来の「水ナス」が栽培されていたのでこれを収集した。農家では長型とやや丸型のものが認められたが、長型のものが在来種でやや丸型のは種苗会社の品種と思われた。「水ナス」の果形は長型で、果色は果実が大きくなるにしたがって薄くなる。

愛知県では尾張地方の在来品種を探索したが、既に在来品種はほとんど栽培されておらず、種苗会社で販売しているこの地方の在来品種の分譲を受けた。

以上15品種24点の在来種を収集した (Table. 2)。

4. 所感

以上の6県の在来ナスを調査・収集したが、いずれのナスも市販品種と比較して晩生であり、収量が低く、病害抵抗性が劣る傾向にあり、これらが在来種の栽培が減少した理由のひとつと考えられた。また京都・奈良の「賀茂ナス」以外は農家の自家用として栽培されているか、ごく限られた地域で流通しているだけであり、栽培しているのは高齢者が多く、今後どの程度これらのナスの栽培が続けられるか疑問である。まだ他の地方にもこのような状況下にある在来ナスがあると考えられるが、今後はこれらの在来ナスを収集することが必要であろう。

5. 収集材料の受渡し計画

収集された在来ナスについては平成元年度に特性調査及び増殖を行い、その後ジーンバンク事業に沿って材料及び情報の受渡しを行う予定である。

Summary

Eggplant has been cultivated for more than one thousand years and differentiated into various local varieties in Japan. But these local varieties are disappearing rapidly because of the introduction of hybrid varieties. This study was conducted to collect and conserve the local varieties of eggplant in some places of the Tokai and Kinki districts.

Twenty-four lines of fifteen local varieties were collected. They are a Kamo-nasu line and two Kokiri-nasu lines in Nara Prefecture, three Shimoda-nasu lines and seven Sugitani-nasu lines in Shiga Prefecture, Kamo-nasu, Yamashina-nasu and Mogi-nasu in Kyoto Prefecture, two Nakamura-nasu lines in Gifu Prefecture, Mizu-nasu in Mie Prefecture, Wase-kitsuta, Shinkuronaga, Oka 11, Kitsuta and Shinkuro-honnaga lines in Aichi Prefecture.

Table 1. A schedule of exploration for local varieties of eggplant in 1988.
収集調査日及び集協力機関

調査日	収集・調査した在来種	収集協力機関
昭和63. 7 .24	鴨ナス	奈良県農業試験場
〃	小切ナス	〃
63. 7 .26	下田ナス	滋賀県農業試験場
〃	杉谷ナス	〃
63. 7 .28	賀茂ナス	京都府農業総合研究所
〃	山科ナス	〃
〃	もぎナス	〃
63. 8 . 5	中村ナス	岐阜県中山間地農業試験場
63. 8 .10	早生橋田	愛知県総合農業試験場園芸研究所
〃	真黒長	〃
〃	岡11号	〃
〃	真黒本長	〃
〃	橋田	〃
63. 9 .20	水ナス	三重県農業技術センター



Fig. 1 Collection areas of local varieties of eggplant in 1988.

主な収集調査地点

Table 2. A List of local varieties of eggplant collected in 1988
 収集材料現地記録表 (東海近畿地方, なす, 1988)

収集番号	作物名	種属名	現地名	収集月日
1	ナス	<i>Solanum melongena</i>	鴨ナス	63.7.24
2	〃	〃	小切ナス (丸)	〃
3	〃	〃	小切ナス (中長)	〃
4	〃	〃	下田ナス	63.7.26
5	〃	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃	〃
7	〃	〃	杉谷ナス	〃
8	〃	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃	〃
14	〃	〃	賀茂ナス	63.7.28
15	〃	〃	山科ナス	〃
16	〃	〃	もぎなす	〃
17	〃	〃	中村ナス	63.8.5
18	〃	〃	〃	〃
19	〃	〃	改良早生橘田	63.8.10
20	〃	〃	真黒長	〃
21	〃	〃	丘11号	〃
22	〃	〃	橘田	〃
23	〃	〃	真黒本長	〃
24	〃	〃	水ナス	63.9.20

収 集 地 (標高m)		特 記 事 項	備 考
奈良県橿原市四条町88	奈良県農試		
〃	〃		
〃	〃		
滋賀県甲賀郡甲西町下田	宮路 敬博		
〃	喜田 健蔵		
〃	上西 三男		
〃 甲南町杉谷	木村 こま		
〃	神山 喜一		
〃	神山 重郎		
〃	吉沢 なつ		
〃	渡辺 清		
〃	渡辺 治一		
〃	渡辺 たく		
京都市北区上賀茂中大路町13	田鶴 均		
〃 山科区西野様子見町61	北岡 营造		
〃 左京区一乗寺薬師堂17	荒木 稔		
岐阜県中津川市実戸	高田ゆう子		
〃 字中村子字中	堀 太郎		
愛知県江南市古知野町瑞穂	松永 種苗		
〃	〃		
〃	〃		
〃 祖父江町	アサヒ農園		
〃	〃		
三重県志摩郡大王町			